

古き良き出雲市中心商店街の魅力を知ろう
—「聞き書き」を通して大学生と地域をつなぐ活動2024—

【出雲キャンパス】

代表：松本祐香
教職員：林健司・高橋梢子・荒木さおり・有藤貴史
学生：武田雛・岩垣澄音・今川あかり・澤津悠香
石田晴菜・岩谷志麻

【浜田キャンパス】

教員：豊田知世
学生：内田蒼人・上見惟吹・西川真由・萩本琴乃
浜口海寿生・藤原義・六車尚哉・山坂椋也

活動目的

出雲市は中心市街地空洞化の課題を抱える。かつて、賑わっていた出雲市駅周辺の商店街（本町、中町、扇町、中央通り、駅通り）は情報化社会の進展、少子高齢化、大型ショッピングモールの建設の影響を受け、シャッター街と化している。ここにあった「人々の暮らし」「出雲市の賑わい」の証を残すことは歴史的価値がある。本プロジェクトでは、2022年度以降、商店街の歴史を知る方々へインタビューを行い、学生は出雲市中心商店街の歴史的価値を知り、商店街への興味・関心を高め、古き良き地域の魅力にも気づく経験をした。現代社会を生きる学生にとって、この取り組みは未来へとつながる活動でもある。今年度は、商店街で「今」を生きる人々も対象とし、商店街の今昔の物語を文章化し継承できるものとしたと考える。学生の活動が地域活性化の一役にもなり得ると考える。

出雲市の中心市街地の「今」「昔」の暮らしを知ることで、
新たな地域の魅力を発見することを目的とした。



活動の方法

「聞き書き」とは

- 話し手（語り手）から聞いた話を「聞き手」が文章にすること。
- 「語り手」が実際に「体験」した「過去」の「事実」に関する記憶を「今」語る。それを文章化すること。
- 消え去る他ないもの、痕跡としてさえ残ることのない「無名」の人々の「語り」を記録することで、歴史を一層豊かなものにする手段。（聞き書き学会）

2022年度は看護栄養学部看護学科の学生のみで「聞き書き」を実施したが、商店街の成り立ちや発展衰退の歴史など、地域づくりの学びにつながることを考えられ、2023年・2024年度は浜田キャンパス地域政策学部と共同で聞き書きを行った。



活動の内容

(1) 「聞き書き」の事前学習



出雲キャンパス、浜田キャンパスのそれぞれで、聞き書きの目的、方法、注意点などを学ぶ学習会を実施。

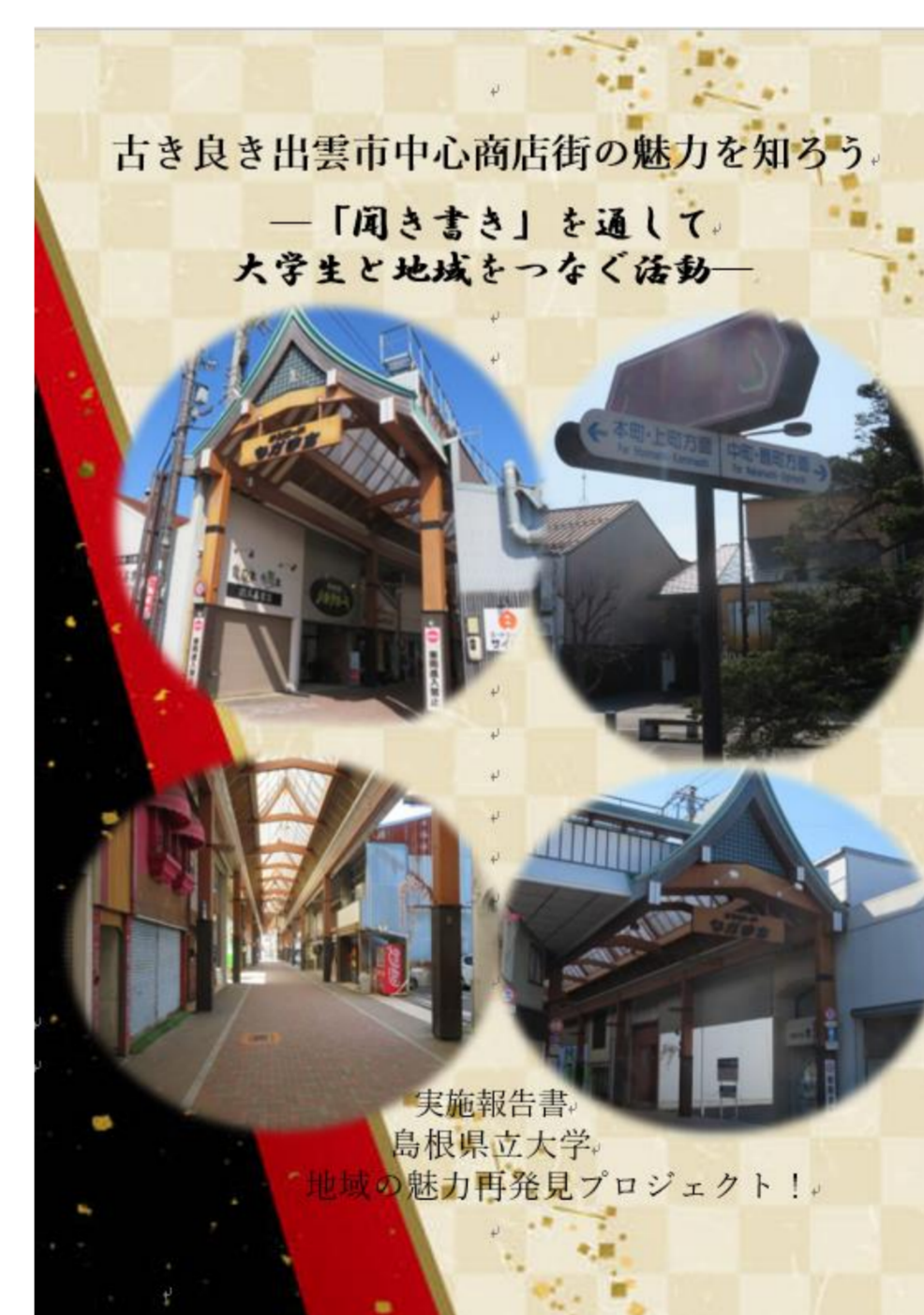


(2) 「聞き書き」の実践

12月に出雲キャンパス学生2名、浜田キャンパス学生2名で商店街のお店の場所を借りて「聞き書き」を行い、現在文字起こし作業を進めている。



(3) 冊子の作成



(4) 現地での報告会

2月末頃に商店街のお店の場所を借りて、対象者、商店街の方々をお招きしてお披露目を予定している。

参加した学生の感想

今回、貴重な体験ができてとてもよかったです。私自身出身が島根県ではないので、島根県全体の時代の流れや出雲市の人々の暮らしの様子を佐藤さんの視点で知ることができて面白かったです。佐藤さん自身が出雲市の人々の暮らしにお酒の販売や、街でのイベントの開催などを通して深くかかわっている方だったので、人々の娯楽という部分をより鮮明に見ることができたなと感じました。今回の聞き書きを通して、佐藤さん自身も懐かしむようなそぶりが多く、楽しそうにお話をされており自分にとっても良い経験になったなと思います。（地域政策学部3年 上見惟吹）

今回、Sさんにお話を聞いて、一つの物語のように、昔の商店街の情景が思い浮かんできました。昔の景色を知っている人がだんだん高齢になってきて語る人が減っている中で、今回の佐藤さんのお話はたいへん貴重だったと思います。人の思いや昔の地域の風景を受け継ぐという意味でも聞き書きの良さを知ることができました。（地域政策学部3年 萩本琴乃）

私は出雲に住んでおり、商店街も通る機会がたまにありました。しかし、商店街のアーケードがいつ作られたか、作られる前はどんな暮らしをしていたかなどは全く知らなかったため、この街並みになるまでに色々なことがあったのだなと街を見る目が少し変わりました。また、私にとっては生まれた時からある商店街でしたが、人によっては思い入れが深いものだと考えると、その人にとって大切なものを私も大切にしていかなければいけないと思いました。このような機会を作っていただきありがとうございました。（看護学科2年 今川あかり）

私は聞き書きを通して、その方の生き方や大切にしておられる考え方・価値観に触れることが出来ました。そして、色々なお話、話し方、表情からもその人らしさを感じ取ることが出来たと思います。これまでの人生において楽しいことだけでなく苦勞されてきたお話もお聞きし、職に対する強い思いを感じることが出来ました。また、当時のお写真も見せていただき、そこから広がるお話も楽しむことが出来ました。聞き書きはただのインタビューではなく、佐藤さんの言葉選びや方言、温かさなどその人ならではの部分に注目する姿勢が大切であると実感しました。（看護学科2年 澤津悠香）